



奈良県感染症情報

令和2年 第2週(1月6日～1月12日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

小児科外来情報

❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ❖

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	19.13	(3.00) ↑	↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	5.79	(0.47) →	→	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.76	(0.12) →	→	→	→
4	伝染性紅斑	1.50	(0.06) ↑	↑	↑↑	→
5	RSウイルス感染症	0.59	(0.12) →	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

❖ 県内概況 ❖

インフルエンザは昨年末第51週に注意報開始基準値の「10」を超え、注意報発令が続いており、その後、増加が続いています。特に中和保健所管内西部地域では報告数が警報基準値の「30」を超えており、非常に多い状態です。

伝染性紅斑(リンゴほっぺ病)は、報告数が多い状況が昨年から続いています。感染力は類に紅い発疹が出現する7～10日ほど前の微熱や風邪様症状などが見られる時期に強くなっています。妊婦の方は感染すると胎児に影響することがあるため、風邪様症状のほととの接触を避けるなど注意が必要です。

感染症の基本的な予防対策は手洗い、うがいの徹底です。また、咳やくしゃみが出る時は、他の人へうつさないために咳エチケット(マスクの着用など)を実施しましょう。日頃から規則正しい生活を心がけ、人混み・繁華街への外出を控えるなど、感染予防に努めましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

昨年から小流行を継続しているインフルエンザは今年も同様で現段階では流行が拡大する気配はない。ほとんどがA型だが、B型も時にみられる様になっている。

その他の対象疾患では感染性胃腸炎も少なく、伝染性紅斑がやや目立つ程度である。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが散発ながら徐々に増加。

幼稚園・保育所での流行を受け乳幼児に増加している。

家族内感染は多くなく強毒の様子は印象。すべてA型。

他に感染性腸炎が流行。

両頬、両前腕、足に軽度の丘疹がみられ手足口病系ウイルス感染症かと思われる発疹を散見する。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザの流行が続いている。またB型インフルエンザもでてきた。

RSウイルス感染、アデノウイルス感染、溶連菌感染の勢いも変わらず続いている。

胃腸炎は増加してきたが、ノロウイルス以外のウイルス性胃腸炎が多い。



奈良県感染症情報

令和2年 第3週(1月13日～1月19日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

病原体(ウイルス)検出情報(12月)

12月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ❖

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	14.02	(19.13) ↑			→
2	感染性胃腸炎	6.62	(5.79) →	↑	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.24	(1.76) →	→	→	→
4	伝染性紅斑	0.76	(1.50) →	→	→	→
5	RSウイルス感染症	0.38	(0.59) →	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

❖ 県内概況 ❖

インフルエンザの報告数は先週に比べて減少しましたが、流行は続いています。昨年10月～本年1月にかけて、保健研究センターで検査を行った結果、AH1pdm09型、AH3(香港)型、B型(ビクトリア系統)を検出しています。

感染性胃腸炎の報告数が増加しています。ノロウイルスは、患者の便から多量に排泄されていますので、おむつ交換後やトイレの後は、手洗いを徹底し、感染を防いでください。

十分な睡眠とバランスのとれた栄養摂取、人混み・繁華街への外出を控える、適度な温度(50～60%)の保持、外出後の手洗いの徹底等により、感染予防を心がけましょう。

❖ 病原体(ウイルス)検出情報(令和元年12月) ❖

*ウイルス分離判定日での集計結果

検出病原体	その種	臨床診断名				
		北部	中部	南部	増減	備考
アデノ	1					
インフルエンザ AH1pdm09	1	1	2	1		感染性胃腸炎(I)
インフルエンザ AH3				1		インフルエンザ(I)
インフルエンザ B(ビクトリア系統)				1		インフルエンザ(I)
ライノ	1	2				アデノ疑い(I)、扁桃炎(I)、手足口病疑い(I)
ライノ A	1	5				気管支炎(I)、急性咽頭炎(I)、気管支肺炎(II)突発性発疹(I)、急性鼻咽喉炎(I)*
ライノ B	1	1				扁桃炎(I)
ライノ C	1	2				クルーズ気管支炎(I)、発疹症、急性上気道炎(I)
RS	2	3				肺炎(II)、気管支肺炎(I)、RSウイルス感染症(I)、急性鼻咽喉炎(I)*
コクサツキ-B群	3	1				急性扁桃炎(I)
B19	2	2				発疹症、伝染性紅斑疑い(I)、伝染性紅斑疑い(I)
単純ヘルペス	1	1				ヘルペス菌口内炎(I)
6B	1	1				突発性発疹・無菌性髄膜炎・発疹症(I)
ヒトヘルペス	7	1				急性腸炎(I)*
サイトメガロ	2	1				DIIC(I)、不明・血球食症候群(I)
EB	1	1				急性腸炎(I)*
ノロ	GII.4	1	3			感染性胃腸炎(4)
サボ	GI	1	1			感染性胃腸炎(I)
サボ	GII	1	1			感染性胃腸炎(I)

※、※※重複感染



奈良県感染症情報

令和2年 第4週(1月20日～1月26日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	17.18	(14.02) ↑	↑	↗	↗
2	感染性胃腸炎	7.82	(6.62) ↑	↗	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.91	(1.24) ↑	→	↑	→
4	伝染性紅斑	0.76	(0.76) →	→	↗	↓
5	RSウイルス感染症	0.50	(0.38) →	↓	↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数が増加しています。報告数は県内の全域で増加しており、特に中和保健所管内西部地域では非常に多くなっています。

1月28日に新型コロナウイルスに感染した県内在住の方が確認されました。新型コロナウイルスの感染対策は、季節性インフルエンザと同様に流水・石けんによる手洗いの徹底などです。また、手などの皮膚の消毒には消毒用アルコールが有効です。咳やくしゃみが出る時は、他の人への感染拡大を防ぐため、①咳やくしゃみを出す際、ティッシュ・ハンカチ、上着の袖などで口・鼻を覆う、②マスクを着用する(口・鼻をしっかりと覆う)など咳チケットを徹底しましょう。

規則正しい生活やバランスのとれた栄養摂取、人混み・繁華街への外出を控える、適度な湿度の保持など日頃からの基本的な感染予防策を心がけましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは1月初めは増加したが、その後はやや減少し小流行が続いている。A型が主流だが、B型も今後増えてくる気配がある。感染性胃腸炎が保育園児で増えてきた。嘔吐や発熱は1日で軽減し、下痢があったり無かったりと軽症が始どである。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが増加。
A・B混在、A型がやや多いがB型が増加中。
嘔吐が主のノロ様感染性腸炎が多い。
他にA群溶血性連鎖球菌がみられる。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

B型インフルエンザが大流行している。A型インフルエンザの流行も続いている。有熱期間が1～2日と短いものや、微熱例もあり臨床診断困難例もみられる。
ノロウイルスによる胃腸炎の流行や、RSウイルス感染症も依然として続いている。また軽症ではあるがアデノウイルス感染症も散見されている。



奈良県感染症情報

令和2年 第5週(1月27日～2月2日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(1月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	14.47	(17.18) ↓	→	→	→
2	感染性胃腸炎	5.44	(7.82) ↓	→	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.26	(1.91) ↑	↑↑	↗	↗
4	伝染性紅斑	0.74	(0.76) ↓	→	→	→
5	RSウイルス感染症	0.47	(0.50) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。伝染性紅斑は、例年より高いレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症は、我が国においては、現在、流行が認められている状況ではありませんが、インフルエンザと同様に、咳エチケットや手洗い、うがい、アルコール消毒などが非常に大切です。一般的な感染症予防対策の、①外出後の手洗い、②適度な湿度の保持、③十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、④人混みや繁華街への外出を控える、⑤飛沫感染対策としての咳エチケットを励行しましょう。

❖病原体(ウイルス)検出情報(令和2年1月)❖

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
RS		1			クルーズ(1)
アデノ		1			咽頭扁桃炎(1)
インフルエンザ		4	1		インフルエンザ(9)
EB		1			不明・血球食症候群(1)
エコー		18	1		発疹症・疫出性扁桃炎(1)
		30	2		流行性耳下腺炎(1)、急性上気道炎(1)、無菌性髄膜炎(3)
コクサッキーA群		1	1		感染性胃腸炎・手足口病(1)、手足口病(1)
サボ		GII	2		感染性胃腸炎(2)
水痘・帯状疱疹		GII.2	1		水痘(1)
ノロ		GII.4	1		感染性胃腸炎(1)
ライノ			1		肺炎(1)
ライノ		C	1		慢性副鼻腔炎(1)





奈良県感染症情報

令和2年 第6週(2月3日～2月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 1月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	8.49	(14.47)	↓	→	↓
2	感染性胃腸炎	4.74	(5.44)	→	→	↑
3	A群溶連菌咽頭炎	2.03	(2.26)	→	↑	↑
4	伝染性紅斑	0.71	(0.74)	→	→	↓
5	RSウイルス感染症	0.35	(0.47)	↑	→	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザは県内全体での定点当たり報告数が注意基準値「10」を下回りましたが、流行の指標となる「1」を下回るまでは注意が必要です。
 伝染性紅斑は例年よりかなり高いレベルで推移しています。伝染性紅斑は、両頬にリンゴのように赤い発疹が出ることから、「リンゴ(はっぺ)病」と呼ばれることもあります。感染力(ヒトにうつす力)は、発疹が出現する7～10日ほど前の微熱や風邪の様な症状などがみられる時期に強くなります。感染しても、ほとんどの場合は軽い症状ですみますが、妊婦が感染すると、胎児の異常や流産を引き起こす場合がありますので、注意が必要です。

基本的な感染予防対策の、手洗いや咳エチケットにより、感染予防に努めましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(矢追医院)

外来患者数はインフルエンザの減少と感染性胃腸炎の流行が見られなくなり、冬季としては例年よりかなり少なくなっている。
 インフルエンザは今週になり半減し、B型が主流となっており、終焉を迎えそうである。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが増加中。A・B混在であるがBが多い。
 感染力がそう強くないのか、現在まだ急増の様相ではない。
 B型は診断キット反応が薄い場合があり、発熱後10時間以上経過の陰性例で2日後に陽性と判定される例があったりする。
 感染性腸炎も流行中、ノロ陽性もある。
 喘鳴の乳児例があるがRS.hMP陽性例はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

B型インフルエンザ流行が続く。A型は減少傾向みられる。
 RSウイルス感染症やノロウイルス感染を中心とする感染性胃腸炎の流行も続いている。



奈良県感染症情報

令和2年 第7週(2月10日～2月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

手洗いは感染予防の基本

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	インフルエンザ	8.64	(8.49)	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	4.29	(4.74)	↘	→	→
3	A群溶連菌咽頭炎	2.12	(2.03)	→	→	→
4	RSウイルス感染症	0.38	(0.35)	→	→	↑
5	咽頭結膜熱	0.35	(0.24)	↑	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

伝染性紅斑は、第7週は減少しています。インフルエンザの報告数は横ばいで、例年より低いレベルですが、インフルエンザによる急性脳炎は例年より多く報告されています。流行の指標となる「1」を下回るまでは注意が必要です。
 春先の感染性胃腸炎として代表的なロタウイルス胃腸炎が流行する時期になっています。正しい手洗いや、タオルの共用を避けるなど、基本的な感染予防対策を励行しましょう。

感染症対策へのご協力をおねがいします

手洗い

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む3枚エチケット」です。

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。
外出先からの帰来時や調理の前、食事前などこまめに手を洗います。



手洗いは、感染症予防の基本です。
 正しい手洗いの方法を学びましょう。
 QRコード: [https://www.pref.nara.jp/27874.htm](#)

◆手洗いは感染予防の基本◆

外出先からの帰宅時や調理の前、食事前などにこまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

持病がある方、高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性があります。咳やくしゃみをする際は、ティッシュやハンカチ、または肘の裏などに着せ、他に伝染しないために「咳エチケット」を行ってください。

発熱等の風邪の症状が見られるときは、学校や会社を休んでください。



奈良県感染症情報

令和2年 第8週(2月17日～2月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	8.33	(8.64)	↓	→	↓
2	感染性胃腸炎	5.12	(4.29)	→	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	1.62	(2.12)	→	→	↑
4	RSウイルス感染症	0.53	(0.38)	↑	→	↓
5	伝染性紅斑	0.50	(0.24)	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの患者報告数は県内全体で徐々に減少していますが、中和保健所管内では定点あたり報告数が14.57と注意レベルとなっています。また、定点当たり報告数が「1」を下回るまでは手洗いの励行や咳エチケットを心がけ、感染予防に努めてください。

感染性胃腸炎の報告数は、第7週よりも増加しています。例年、春にはロタウイルス胃腸炎が流行します。ロタウイルスは感染力が非常に強く、感染者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれます。トイレの後や食事の前などこまめな手洗いを心がけ、おむつの交換後は必ず流水と石けんによる手洗いをしましょう。また、消毒薬は次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤)を用いましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

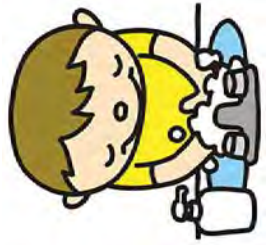
インフルエンザは週に一桁台の数が続き、殆どが迅速検査でB型になり、3月には無くなりそうです。嘔吐、発熱、腹痛と下痢の感染性胃腸炎は、例年の様にインフルエンザの減少に反比例し増える事は今のところみられません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが続いている。ほとんどがB型、A型は少ない。感染性腸炎も持続。RSは減少した。年長児でマイコプラズマ様の例がある。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

A型インフルエンザは減少。B型インフルエンザの流行も落ちてきた。ノロウイルス様の胃腸炎も減少してきたが、軽症下痢の腸炎も多い。ヒトメタニューモウイルス感染症が増加している。



奈良県感染症情報

令和2年 第9週(2月24日～3月1日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

病原体(ウイルス)検出情報(2月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	インフルエンザ	6.71	(8.33)	↘		↓
2	感染性胃腸炎	3.68	(5.12)	↘	→	↓
3	A群溶連菌咽頭炎	2.21	(1.62)	→	→	→
4	水痘	0.53	(0.29)	↑	↑	→
5	RSウイルス感染症	0.47	(0.53)	→	↘	↑

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は県内全体では減少していますが、中和保健所管内西部地域では定点あたり報告数が高い状態が続いています。引き続き、手洗いの励行、咳エチケットを心がけ、感染予防に努めて下さい。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の報告数が増加しています。A群溶連菌咽頭炎は、患者の咳やくしゃみによって飛び散る飛沫を口や鼻から吸い込むことで感染します。また、患者と握手・だっこなど直接接触した場合や、患者の病原体の付着した手でドアノブ・遊具・遊具・遊具などに触れ、間接的に接触した場合にも感染することがあります。タオル・おもちゃの共用は避ける、こまめに手洗いを行うなど、感染対策を行いましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和2年2月)◆

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ	6	9			インフルエンザ(13) インフルエンザ疑い(2)
インフルエンザ B (セントア系統)	1	1	1		インフルエンザ(3)
RS	1	1			RSウイルス感染症(1)※ インフルエンザ疑い(1)
エコー	30	1			RSウイルス感染症(1)※
ライノ	2	6			突発性発疹(1)、急性上気道炎(1) 鼻咽頭炎(1)、咽頭炎(8)、不明熱(1) 気管支炎(1)
ライノ	C	3			扁桃炎(1)、気管支肺炎(2)
バルボ	B19	1			伝染性紅斑(1)
ノロ	GII.2	1			感染性胃腸炎(1)
	GII.4	2			感染性胃腸炎(2)

※重複感染



奈良県感染症情報

令和2年 第10週(3月2日～3月8日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)増減			
1	インフルエンザ	5.05	(6.71) ↓	↔	↓	↔
2	感染性胃腸炎	3.21	(3.68) ↓	↔	↔	↔
3	A群溶連菌咽頭炎	2.38	(2.21) ↑	↔	↔	↓
4	伝染性紅斑	0.50	(0.35) ↑	↔	↔	↔
5	水痘	0.29	(0.53) ↓	↔	↔	↔

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、↔横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザの定点あたり報告数は前週より減少していますが、定点あたり報告数が1.0を下回るままでは注意が必要です。引き続き、感染予防に努めます。

全国で新型コロナウイルス感染症の報告が相次いでいます。新型コロナウイルス感染症では、発熱や咳、全身がだるいなどの風邪のような症状が一週間前後続くことが多いです。高齢の方や糖尿病、心不全、慢性呼吸器疾患のような基礎疾患のある方は、症状が重くなりやすいので、注意が必要です。これまでに得られた情報から、主な感染経路は飛沫・接触感染と考えられるため、感染拡大を防ぐためには一人一人の咳エチケットや手洗いの励行が重要となります。また、一人の感染者が複数に感染させた事例が報告されており、小規模な患者の集団が次の患者の集団を生み出すことの防止が重要になります。換気が悪く、ヒトが密に集まって過ごすような空間に集団で集まることは避けるようにしてください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢道医院)

新型コロナウイルスの感染を心配して、外来患者数はかなり少なくなっています。インフルエンザはB型が少しだけみられます。その他の感染症はほとんどありません。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は受診控えもあって少ない。
インフルエンザはB型が少しある程度、増加傾向は見られない。
A型は減少した。
感染性腸炎が少しづつ流行、下痢が多く嘔吐は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

A型インフルエンザはほとんどみられなくなった。B型インフルエンザは一部保育所で流行が続いている。重症例はないが遷延例はみられる。
下痢の長引く胃腸炎も増加。ノロ、ロタウイルスは陰性。花粉症にまじりアデノウイルス結膜炎も増加している。

今週の概要

- 新型コロナウイルス感染症を防ぐには

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)増減			
1	感染性胃腸炎	2.62	(3.21) ↓	↔	↔	↔
2	インフルエンザ	1.82	(5.05) ↓	↔	↓	↔
3	A群溶連菌咽頭炎	1.35	(2.38) ↓	↔	↔	↔
4	RSウイルス感染症	0.38	(0.26) ↑	↔	↔	↔
4	水痘	0.38	(0.29) ↑	↔	↔	↔

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、↔横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、例年に比べて低い水準で推移しています。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の定点あたり報告数は、例年並みの水準で推移しています。A群溶連菌咽頭炎は、患者との接触を介して感染するため、家庭や学校など集団での感染もみられます。患者との濃厚接触は避けるようにしましょう。

インフルエンザの定点あたり報告数は先週に引き続き減少していますが、定点あたり報告数が「1.0」を下回る場合は注意が必要です。インフルエンザの感染経路は飛沫感染と接触感染です。引き続き、手洗いや咳エチケットなど予防に努めましょう。また、乾燥しやすい室内では加湿器などで適切な湿度(50～60%)を保つことも効果的です。インフルエンザにはアルコール消毒剤が有効です。

～新型コロナウイルス感染症を防ぐには～

風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、お一人一人の咳エチケットや手洗いなどの実施をお願いします。



☆日常生活で気をつけること

- ・まめに手を洗いましょう。石けんを使い、流水でよくすすぎましょう。
- ・特に帰宅時、調理の前や、食事の前や、咳の後は手洗いを徹底しましょう。
- ・咳をする場合は口や鼻をティッシュで覆うなど、咳エチケットを守りましょう。とっさの時は袖や上着の内側で覆うようにしましょう。
- ・換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることは避けてください。
- ・持病がある方、ご高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

- ・咳や発熱など体調がすぐれない時は、症状を悪化させないために、また、人にうつさないために、無理せず休むようにしましょう。



奈良県感染症情報

令和2年 第12週(3月16日～3月22日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.21	(2.62)	→	→	→
2	A群溶連菌咽頭炎	1.29	(1.35)	→	→	→
3	インフルエンザ	0.45	(1.82)	→	→	→
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.26)	→	→	↑↑
5	伝染性紅斑	0.26	(0.29)	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

インフルエンザの報告数は前週に引き続き減少し、定点あたり報告数が「1」を下回りました。3月中旬に定点あたり報告数が「1」を下回るのは平成22年以来です。
新型コロナウイルス感染症については、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染対策をしっかりと行うことが重要です。また、多くの事例では新型コロナウイルス感染者は、周囲の人にはほとんど感染させていないものの、一人の感染者から多くの人に感染が拡大したと疑われる事例が存在します。これまで集団感染が確認された場に共通する「1.換気の悪い密閉空間、2.人が密集している、3.近距離での会話や発声が行われる」という3つの条件が同時に重なった場所(換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間(密閉空間・密集場所・密接場所)に集団で集まることは避けてください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響で
過年の半分程度です。
感染症はほとんど無く、アレルギーマーチも終息したようです。
インフルエンザも終息したようです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

受診控えの影響が外来数は少ない。
インフルエンザは減少、B型がわずか。
兄妹のhMP陽性例があった。
感染性腸炎が持続してみられる。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは減少。B型が散見されるのみ。
胃腸炎は増加しているが、軽症例が多い。
アデノウイルスや溶連菌による咽頭炎もみられる。
ウイルス性肺炎はヒトメタニューモウイルス感染によるものが多い。

出典: 厚生労働省ホームページ
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000610429.pdf>)



奈良県感染症情報

令和2年 第13週(3月23日～3月29日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)			
1	A群溶連菌咽頭炎	1.82	(1.29)	→	→	↑
2	感染性胃腸炎	1.79	(2.21)	→	→	→
3	伝染性紅斑	0.35	(0.26)	→	→	→
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.29)	→	→	↑↑
5	突発性発しん	0.24	(0.15)	→	→	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症は前週に比べ横ばい、あるいは減少で推移しています。
全国で新型コロナウイルス感染症の報告が相次いでいます。新型コロナウイルス感染症の予防には、風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に一人一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとて重要です。また、風邪のような症状があれば、外出を控えるようにし、やむを得ず、外出する場合にはマスクをつけるようにしましょう。集団感染の共通点は、特に、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するお高い場所」です。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることは避けるようにしましょう。

出典: 厚生労働省ホームページ
(<https://www.mhlw.go.jp/content/000610429.pdf>)

◆病原体(ウイルス)検出情報(令和2年3月)◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

検出病原体	北部	中部	南部	その他	臨床診断名
インフルエンザ A/H1pdm09	6	3			インフルエンザ(9)
インフルエンザ B (ヒクトリア系統)	1				インフルエンザ(1)
/ノ	G.II.4	1			感染性胃腸炎(1)
アデノ	3	1			感染性胃腸炎(1)





奈良県感染症情報

令和2年 第14週(3月30日～4月5日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報
3月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減(前週)		
1	感染性胃腸炎	1.82	(1.79)	↓	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	1.53	(1.82)	→	↑
3	突発性発しん	0.65	(0.24)	↑↑	↑↑
4	インフルエンザ	0.18	(0.22)	↓	↓
5	伝染性紅斑	0.18	(0.35)	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの**変化** **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

咽頭結膜熱の報告数は前週に比べ横ばい、あるいは減少で推移しています。前週に比べべ全地域で引き継ぎ、定点把握感染症は前週としては流行には至っていません。
現在、大都市を中心に新型コロナウイルス感染症の患者報告数が急増しています。新型コロナウイルス感染症の主な感染経路は飛沫・接触感染であることから、感染拡大を防ぐためには一人一人が咳エチケットや手洗いの励行することが重要です。マスクをつけていない場合で咳、くしゃみやみをするときは手でなく、曲げた肘かハンカチなどで口を覆うようにしましょう。風邪症状があれば、人との接触を避け、外出を控えるようにしましょう。また、年度初めで会食などの機会もあるかと思いますが、集団感染を防ぐために換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

気管支喘息など慢性疾病による受診者以外の外来数は極端に少ない。
一部の保育園で流行していた伝染性紅斑も減少し、報告すべき感染症は見当たらない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は極端に少ない。
インフルエンザは見られず終焉した印象。
他に登殿感染症の受診はなく、水痘が一例あったのみ。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行はほぼ終息した。
胃腸炎は散見されるが軽症例が多い。
アデノウイルス感染症やヘルパンギーナの増加傾向あり。
ウイルス性肺炎ではヒメタニューモウイルス陽性例が多い。



奈良県感染症情報

令和2年 第15週(4月6日～4月12日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

新型コロナウイルス感染症を防ぐために

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		中部	南部
		定点当たり	増減(前週)		
1	感染性胃腸炎	1.65	(1.82)	↓	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(1.53)	↓	↑↑
3	突発性発しん	0.47	(0.65)	↑	↑↑
4	咽頭結膜熱	0.32	(0.15)	↑	↑↑
5	手足口病	0.18	(0.15)	↑	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。) **増減**: 過去5週間平均数と比べたときの**変化** **↑↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

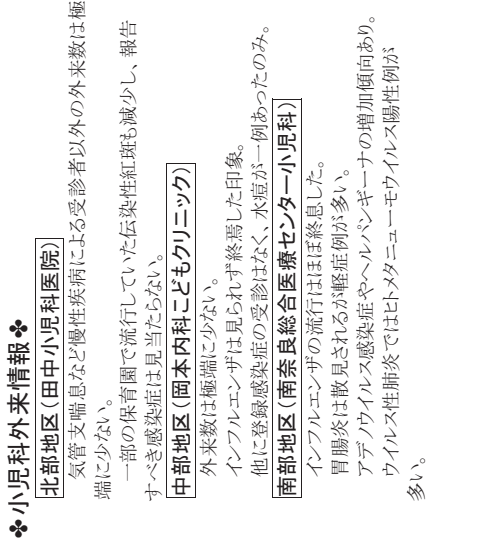
咽頭結膜熱の報告数が増加しており、特に中和保健所管内東部地域からの報告が多くなっています。咽頭結膜熱は発熱、咽頭痛、結膜炎が主な症状の疾患で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。感染予防のために、こまめな手洗いを心がけ、タオルなどの共用を避けるようにしましょう。
大都市を中心に新型コロナウイルス感染症の患者報告数は急増しており、奈良県でも感染者数は増加傾向です。病原体は目に見えませんが、いろいろな物を触るため手は汚れています。特に手すりなど不特定多数の人が触る物に触った後、咳・くしゃみやみを手で抑えた後など感染予防のため目・鼻・口を触る前に手洗いを徹底しましょう。
規則正しい生活やバランスの取れた栄養摂取、適度な温度と湿度の保持など、日頃からの体調管理を心がけましょう。

～新型コロナウイルス感染症を防ぐために～

新型コロナウイルス感染症の予防には、風邪や季節性インフルエンザと同様に一人一人の感染対策が重要です。

☆気を付けること

- ・急いでない外出はできるだけひかえましょう。
やむを得ず外出する場合には、マスクを着用し短時間にしましょう。
- ・「三密」(密集、密室、密接)を避けましょう。
集団感染の共通点は、特に「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触する恐れが高い場所」です。できるだけ、そのような場所に行くことは避けようにし、やむを得ない場合にはマスクをする、換気を促す、大声で話さない、相手と手が触れあう距離での会話は避ける、といったことに心がけましょう。
- ・咳エチケットや手洗いを心がけましょう。
咳やくしゃみやみをするときは、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻を押さえ飛沫が飛ばないようにしましょう。
また、こまめに手洗いをしようようにしましょう。石けんを使い、流水でよくすすぎましょう。





奈良県感染症情報

令和2年 第16週(4月13日～4月19日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.32	(1.65) ↓	→	→	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.91	(0.97) ↓	→	→	→
3	手足口病	0.35	(0.18) ↑↑	↑↑	→	→
4	突発性発しん	0.29	(0.47) ↓	→	→	↑↑
5	伝染性紅斑	0.15	(0.18) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑急増**、**↑増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は、報告数上位5疾患を除き、前週に比べ横ばい、あるいは減少で推移しています。手足口病が増加していますが、発生状況としては県全体での流行には至っていません。

新型コロナウイルス感染症の患者報告数は、増加傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症はウイルスに曝露してから概ね5日程度で発症し、発熱や咳、全身の倦怠感といった、風邪のような症状が1週間ほど続くことが多いです。予防には風邪や季節性インフルエンザと同様に、一人一人が咳エチケットや手洗いの励行することがとても重要です。また、感染拡大を防ぐため、3つの密(密閉、密室、密集)を避けるようにしましょう。「密閉」空間にしないよう換気を心がけ、「密集」しないよう人と人との距離をとり、「密接」した状況での会話や発声は避けるようにしましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(田中小児科医院)

溶連菌感染は減少し、例年増える感染性胃腸炎の増加はない。
登録すべき感染症は、全体的に少ない様子です。
その中で、発熱患者の診断には苦慮します。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は受診控えの様子が極端に少ない。
登録の感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの発生はなかった。
アデノウイルス咽頭炎、胃腸炎が増加、ヘルパンギーナも散見。
全体的に感染症は少ない。

出典:首相官邸 HP より



奈良県感染症情報

令和2年 第17週(4月20日～4月26日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

院内感染・施設内感染を防ぐために

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	A群溶連菌咽頭炎	0.97	(0.91) ↓	→	→	↓
2	感染性胃腸炎	0.94	(1.32) ↓	→	→	↑
3	突発性発しん	0.29	(0.29) →	→	→	↑
4	咽頭結膜熱	0.15	(0.03) ↓	↑	↓	→
5	手足口病	0.12	(0.35) ↓	→	→	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 **↑↑急増**、**↑増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆県内概況◆

定点把握感染症の報告数は、例年に比べて低い水準で推移しています。全国で、新型コロナウイルス感染症の報告が続いており、感染拡大を防ぐためには、一人一人が他人との接触を今より減らすことを意識し、それを実践することが大事です。まず、体調不良者は無理せずアルバイト、仕事や学校を休み、外出を控えましょう。外出は生活の維持に必要な場合(医療機関への通院、医薬品・生活必需品の買い出し、職場への通勤、健康維持のための散歩など)のみとし、不要不急の外出、帰省や旅行など、県をまたいでの移動は控えるようにお願いします。買い物の際は、一人、または少人数で、なるべく短時間で、手洗いやマスクの着用、他人との距離を保ち、混雑を避けるようにしましょう。

～院内感染・施設内感染を防ぐために～

全国的に新型コロナウイルスの医療機関や介護施設での院内感染・施設内感染が発生しています。高齢者や基礎疾患のある方が多くいるこれらの施設で集団感染が起きる

院内感染・施設内感染を防ぐため、以下の点に注意するようにしましょう。

- ・換気を励行する
- ・換気の悪い密閉空間にしないよう、換気設備の適切な運転・点検を行いましょ。窓やドアを開けるなどして定期的に外気を取り入れる換気を行いましょ。
- ・人の密度を下げる
- ・人が密集しないような環境作りを行いましょ。休憩時間をずらすなど、人の動きを工夫するようしましょ。
- ・丁寧に手を洗う
- ・手指衛生の前に目や鼻、口を触らないよう注意しましょ。共用物品は定期的消毒しましょ。
- ・医療機器、パソコンのキーボードなどの共用物品は定期的消毒しましょ。
- ・職員、入院患者、入所者の健康管理を徹底する
- ・職員は毎日出勤前に体温を測定し、発熱や呼吸器症状がある場合には仕事を休みましょ。また、集団感染を早期探知の上では職員、入院患者、入所者の体調不良者などの状況を把握しておきましょ。特に同部署、同室者、担当職員と担当患者といった接触のある人同士で複数の体調不良者がいる場合には要注意です。

(参考)厚生労働省HP「介護事業所等における新型コロナウイルス感染症への対応等について」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/huhwy/0000121141_00089.html

次回情報(18週)は、令和2年5月11日(月)に発行いたします。





奈良県感染症情報

令和2年 第18週(4月27日～5月3日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.79	(0.94)	↓	↓	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	0.76	(0.97)	↓	↓	↑↑
3	突発性発しん	0.44	(0.29)	↗	→	↗
4	伝染性紅斑	0.12	(0.09)	→	↓	→
4	ヘルパンギーナ	0.12	(0.06)	↑↑	↑↑	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症について、県全体では流行はみられません。A群溶連菌咽頭炎が、中和保健所管内東部地域でやや多く報告されています。また、例年、夏場に流行し口腔内の水疱性発疹等を引き起こすヘルパンギーナの報告もみられました。

新型コロナウイルス感染症は、県内で新たな感染者の報告が続いています。感染拡大防止には「三つらな三つさない」の徹底が必要です。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなど、環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあり、この状況を可能な限り避けることが重要です。日頃からの体調管理を心がけ、手洗いと咳エチケットの徹底や人と人との距離をとることを徹底し、感染を予防しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

予防接種と健診以外の外来受診は、極めて少ない。
登録すべき疾患は無かった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は極端に少ない。
インフルエンザは終焉。その他の感染症はなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染症は少ない。アデノウイルス咽頭炎、アデノウイルス性胃腸炎が散見。
各種迅速検査陰性のウイルス性咽頭炎、扁桃炎が増加している。
対応療法で軽快している。



出典: 首相官邸 HP



奈良県感染症情報

令和2年 第19週(5月4日～5月10日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

◆基本的な感染対策について◆

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	0.35	(0.79)	↓		↑↑
2	咽頭結膜熱	0.24	(0.09)	↑↑	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	0.21	(0.76)	↓	↓	
4	ヘルパンギーナ	0.12	(0.12)	↑	↑↑	↓
5	伝染性紅斑	0.09	(0.12)	↓	↓	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

定点把握感染症は、報告数が少なく、県内の流行はみられません。咽頭結膜熱、ヘルパンギーナの報告がみられます。咽頭結膜熱やヘルパンギーナ、昨年に大流行した手足口病は、夏に子供がかりやすい感染症で、“夏風邪”と呼ばれています。ほとんどもウイルス性です。抗ウイルス薬は効きません。感染経路は、飛沫感染や接触感染であり、タオルの共用を避けることやおむつ交換等で排泄物を処理した後の手洗いの徹底が感染予防に有効です。

県内の新型コロナウイルス感染症は、新たな感染者は減少してきていますが、この傾向を維持するために①身体的距離の確保②マスクの着用③手洗いといった基本的な感染対策を一人一人が継続することが大切です。

◆基本的な感染対策について◆

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するためには、自身を感染から守るだけでなく、周囲に感染をさせないことが重要です。

感染防止の3つ基本

- 身体的な距離を確保する
人と人の間隔はできるだけ2m(最低1m)開けましょう。
- マスクを正しく使用する
マスクは口と鼻をしっかりと覆い、できるだけ密着させましょう。
使用中や使用後のマスク表面(外側)は汚れていると考え、触らないようにしましょう。触ってしまった場合は、手洗いをしましょう。
- 手洗いを正しくする
手洗いは外出先から帰宅したとき、調理の前、食事前など、こまめに洗いましょう。
石けんで丁寧に洗い、十分に水で流した後、清潔なタオルやペーパータオルで拭き、乾かしましょう。



出典: 首相官邸 HP